

延喜式内 奈良神社報

発行日 令和8年1月1日
通番 第14号
発行者 奈良神社氏子総代会
編集者 広報委員会

結びの心

宮司 川端康稔



神道には「産霊」という尊い言葉があります。これは「結び」の語源であり、「生み、成し、結び」という意味を持ちます。天地のはじまりにおいて、高御産日神と神産日神の二柱の神が現れ、万物が生まれ、命がつながり、調和が保たれたと伝えられています。つまり、この世界を成り立たせている根源の働きが「むすひ」であり、そこに「結びの心」があります。

私たちの暮らしの中にも、この「むすひ」は息づいています。人と人との縁、自然と共にある営み、家族の絆、地域の助け合い——これらすべては、目には見えぬ神の御働きによって結ばれている証です。神社の祭りや祈りもまた、神と人とを結び、祖先と子孫とを結ぶ「むすひ」の実践に他なりません。

奈良の地を拓かれた奈良別命は、まさに

この「結びの心」をもって人々を導かれた。荒地を耕し、水を引き、村を築き、祈りを中心とした暮らしを整えられた。その御心が今日の奈良の豊かさの礎となっています。私たちはこの地に生きること、命様の志と祈りの流れの中にあるのです。これこそが、奈良に住まう者の誇りでありましょう。

神社は、人々の心を結び直す場所です。手を合わせ、心静かに祈るとき、私たちは天地のいのちと通い合い、祖先の祈りと今を生きる私たちの願いが一つに結ばれます。そこには、時代を超えて続く「むすひ」の働きが息づいています。

この奈良の地は、千五百余年の祈りを重ね、絶えることなく神々を敬ってきた尊い土地です。その長い歳月の中で、人々は支え合い、祈り合い、結び合って生きてきました。私たちはその道統を受け継ぐ者として、この地の歴史と信仰を胸に、未来へと祈りをつないでいかねばなりません。

本年も、産霊の御力によって、皆さまの心が豊かに結ばれ、奈良の地がさらなる和と幸に包まれますよう、心よりお祈り申し上げます。

宮司 拝

新年おめでとうございます

総代長 木村 慎一郎

奈良神社の氏子皆様、奈良地区の皆様には、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私は、先代総代長の急の退任によりまして、昨年四月からその重責を務めさせて頂いたこととなりました。

元々、浅学菲才の身ですので、歴代の総代長皆様とは比べる統べも在りませんが、努力して一歩でも近づけるよう努めてまいりますので、ご理解とご指導の程宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は戦後八十年を経過し、昭和ですと百年の節目をむかえました。我が国は、先人のご努力により敗戦後の焦土から驚異的な復興、そして世界的にも稀な発展を遂げ、私達の郷土奈良地区も、昭和の合併で熊谷市の一部となり、平成の大合併を経て県北の最大都市として発展を続け、二十周年の節目を迎えました。

この間、世界では戦乱が続き停まることなく、我が国では、台風等の風水害や、東日本大震災等の災害や原発事故が続き、更に感染症の蔓延等と人々が厄災に苦しむ事も多々経験いたしました。

奈良地区では、お住まいの皆様、の平素の努力と共に、千数百年の古から郷里奈良地区の安寧と発展を見守り続けていただきました。奈良神社(御祭神奈良別命)の



御神徳・御加護により、大きな厄災は避けることが出来たと考えます。

本年は、丙午の年です。丙午歳は「勢いとエネルギーに満ちて、活動的」な年になると言われています。

この一年、奈良神社は、本当に多くのお祭りや催し物が斎行されます。皆様も、是非機会を捉えまして足をお運びいただけましたら幸いです。

結びになりますが、皆様の御多幸と御健勝を祈念申し上げ、ご挨拶と致します。



奈良神社のホームページは上記「QRコード」からご覧いただけます。

奈良神社斎行(予定)

奈良神社では、本年も地域の平安と繁栄を祈念し、様々な祭事を行っております。

一月一日 初詣客お迎え 午前零時

同日 毎年大勢の初詣客をお迎えしています
元旦祭 新年を寿ぐ 午前

一月三日 氏子祈願祭 午前
〇皆様の祈願をお受けし斎行 午後五時

二月二日 節分祭 午後五時
〇年男、年女を募集し斎行 (参加に資格、条件はありません。)

四月十五日 春季例祭 午後
十月十五日 秋季例祭 午前

十一月中旬 七五三祈願祭
〇地区内の参加者を募り斎行

同 下旬 神宮大麻頒布始奉告祭
同 下旬 奈良小三年生 神社訪問

十二月二十二日 冬至祭・大祓祭 午前
十二月三十一日 古札焼納祭 午後四時

〇皆様の古札をお預かりし斎行
是非、機会を捕えてご参拝ください。

令和七年度総代会の体制

(令和八年三月迄任期)

奈良神社の運営は、地域の皆様のご支援・ご協力をいただく中、川端康稔宮司、総代会役員、地区総代、氏子皆様の御協力により対応しています。ご意見・要望等がありましたら地区総代・役員にお寄せください。



総代会議の一場面

「御神灯」・「鈴の緒」の整備完了

昨春の例祭時、御来賓から、「御神灯」が破損「神社号」が欠落し、竹骨が大きく露出」して、修復が望まれる趣旨の指摘が寄せられておりました。

奈良神社では、十年ほど前の大雪の際に瓦・雨樋等の補修、二年程前には、参の鳥居(両部鳥居)の基礎が朽ちて揺るぎ、危険なことから補修を行った経過があります。神社では年度初めに氏子皆様からお納め頂きます御初穂料を維持管理に充てさせていただきます。

御初穂料を維持管理に充てさせていただきます。御初穂料を維持管理に充てさせていただきます。御初穂料を維持管理に充てさせていただきます。

今回、御来賓の指摘の際に御寄付の提案もありましたことから、此の趣旨を御来賓、総代会を中心にご案内をさせていただいた処、五十五口もの御寄付をお寄せ戴きました。



新調なった御神灯



参の鳥居 (両部鳥居)



整備なった拝殿正面

これにより、「御神灯」に併せ、やはり以前から汚損が激しく、同様の指摘が有りました拝殿正面の「神鈴の緒」も補修、取付位置の修正等を行わせて戴きました。

改めまして、今回の整備にあたりましては、大勢の関係皆様に御寄付・ご支援を賜りましたことに深謝申し上げますと共に、「御神灯」新調には山下一男様、「鈴の緒」提供では川端康稔様、拝殿への取付では岡田工務店様に一方ならぬご尽力いただきましたことをこの場をお借りしてご報告させていただきます。

御神灯記述の「延喜式内社」について

「奈良別命」は、第十代崇神天皇の皇子「豊城入彦命」の四世の孫で、第十六代仁徳天皇の御代に下野国(現在の栃木県)の初めでの国造が「奈良別命」です。(国造本記)

「奈良別命」は、奈良地域の発展と人々の生活の安定に努めたため、地域では大切に崇めた。(検古記)

平安時代中期に朝廷が作成した全国の官社一覽である「延喜式神名帳(西暦九二七)」には、当時の全国二、八六一社の名が記され、武蔵国に四四社、郷里の幡羅郡では「奈良神社」を始め四社が掲載されています。この「神名帳」に名が記された神社が「式内社」とされます。

なお、「文徳実録」中には、「慶雲二年(西暦七〇五)陸奥国の反乱に際しご神威を発揮したことにより、式内社に…」との記述があり、当神社は、千三百年余の歴史を有することが認められます。

(注) 神社報第十二号「奈良神社の沿革」から抜粋

節分祭、年男・年女募集!!

奈良神社では、令和八年も「節分祭」を二月三日に斎行いたします。

ついては、豆まきの年男・年女を、生まれ年等に関係なく募集します。

参加いただいた皆様には、個名祈願の神札、福豆、記念品をお持ち帰り頂きます。

例年大勢の皆様が参集し、厳かな中にも賑やかに斎行されます。

地元奈良神社での「節分祭」に是非ご参加、お立ち寄りをお待ちしています。



節分祭の一場面

編集後記

奈良神社報も第十四号を迎えました。多くの皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、皆様のお手元に、年末・年始の諸行事がお分かりいただけますように旧年中にお届け出来るように努めました。が如何だったでしょうか。

是非、初詣、節分祭等にご参拝ください。